

平成27年度 小矢部市議会 議会報告会 報告書

開催年月日	平成27年10月23日(金)			会場名	北蟹谷スポーツセンター アリーナ	
開始時刻	午後7時			終了時刻	午後8時37分	
参加者数	男	29人	女	6人	合計	35人
出席議員	嶋田 幸恵		中田 正樹		白井 中	
	義浦 英昭 (副議長)		加藤 幸雄		中野留美子	
司会進行	義浦 英昭 (副議長)			記録	議会事務局	

議会報告会での意見交換(概要)

意見等の要旨	議員回答の要旨
<p>・小矢部市の財政について 市の財政がやはり心配である。先ほどの説明で、8億円の貯金はあるが、300億円の借金があると言われた。子どもたちや孫たちに大きな借金を渡すということである。少子高齢化が進んでいることは目に見えている。借金をどのようにして返済し、どのように節約していくのか、市報等で知らせてほしい。</p>	<p>財政の健全化を図る指標として、実質公債費比率と将来負担比率というものがあります。小矢部市の実質公債費比率は14.7%で、この数値が25%を超えると赤信号となります。また将来負担比率は199.9で、この数値が350を超えると赤信号になります。将来負担比率は全国ランキングでも高い水準にありますので、この数値については注意深く見えています。人口減少が進んでいることもあり、大きな投資については、しっかり監視していきたいと思っています。</p>
<p>・行政視察について 年に数回、行政視察研修を実施されている。行政視察研修で得た情報について、良かった取組等があれば教えてほしい。(出席議員全員への意見)</p>	<p>(出席議員 順次回答) 地区ごとに防災士を育成している例、定住促進を図るためインセンティブを与えている例、地方創生に関して国の職員と意見交換を行った例、地産材を活用して施設を整備している例、要介護度が改善した場合に報奨金を支給している例、誘致企業のリフォローアップを図っている例、議会活動にタブレット端末を活用している例などがあつた。それぞれ議会や委員会で紹介し、本市の施策に反映できないか提言しています。</p>
<p>・議員定数について</p>	<p>※他の会場で同様のご意見がありました。 ※回答は総合会館のページをご参照ください。</p>
<p>・市職員等の天下りについて</p>	<p>※他の会場で同様のご意見がありました。 ※回答は総合会館のページをご参照ください。</p>
<p>・公共料金について 小矢部市に引っ越してきた方が、1ヶ月分の水道料金の請求を見て2ヶ月分の料金ではないのかと言われた。水道料金が高いということである。 先ほどの報告で、水道事業会計の剰余金を処分したということだが、水道料金の引き下げということにはならないのか。</p>	<p>水道料金が高いという指摘はそのとおりだと思います。全国813市区の各種データを網羅した雑誌がありますが、やはり水道料金や下水道料金については他市と比較しても高い水準にあるということで、料金を引き下げることができないか議論していますし、今後の下水道整備そのものについてもトータルに考えて議論をしています。 今ほどの指摘も参考に取組んでいきたいと考えています。</p>